

## 新型コロナウイルス感染への方針第12弾(2020, 12, 15現在)

認定こども園あけぼの愛育保育園  
園長 北野 久美

全国各地でコロナ感染者数の最高記録が  
日々更新されています。

区内の施設でもクラスターが発生、また他の施設に  
おいても陽性者が出ています。

一時期、わずかに減っていた感染者数が、最近では記録を更新するばかり・・・  
右肩上がりの感染拡大です。  
園児や保育士の感染で休園したり、クラスターとなったりしているところも・・・。

**新型コロナウイルス感染症が終息したわけではありません！！**  
**ワクチンの開発や特効薬が出来たわけではありません！！**

まだまだ感染拡大が広がると思われ、本園でのクラスター発生も決して例外ではありません。保護者の皆様も、リスクを抱えながらのお勤めで、ご心配なことでしょう・・・。特に医療従事者、福祉従事者の皆様、社会インフラを支えていらっしゃる方、専門職等の皆さまですから、とりわけ細心の注意が必要と思われま

す。  
私としましても、子どもたちと職員の健康を守り、引き続き開所していくため努力しておりますが、**保護者の皆さまの協力が不可欠**です。

**再度のお願いです。よろしくご協力ください。**

### 【マスクについて】

基本的に、園では子どものマスク着用は致しません。(発熱時、喘息等で咳のひどいとき等例外はあります)

それは、これまでも申し上げてまいりましたが、ウイルスのついた表面を触ることなくマスクの脱着をすることが難しく、遊びの中でもマスク越しに大きな声になってしまう事、食事時の始末の徹底等が出来ず、かえって不衛生になるといった理由からです。

ただし、保育士は自身の飛沫防止と、マスクをつけていない子どもたちからの飛沫を防ぐという意味合いからもマスクを着用しています。

乳児のミラーニューロン（他者の行動を見た時、自分が同じ行動をしている時と同じ活動を示し、相手の行動を瞬時に理解する上で役立つ神経細胞）や言葉の獲得のためにも保育士の口元は見せたいところですが、コロナ禍では思うようにいきません。0, 1歳児の保育士はマウスシールドで対応していますが、かなりリスキーな状態です。

保護者の皆様は“送迎時”はもちろん園敷地内に入られる際は必ずご着用ください。

鼻マスクや顎にかけられたままの状態では困ります。

正しい着用をお願いします。

## **\*園は、本質的におとなも子どもも「濃厚接触」の**

**場所であり、感染のリスクをゼロにすることは不可能です。**

**特に保育者は、送迎時には、園児数の2倍近くの大人と接します。**

## **\*「新しい生活様式」での保育展開はこれまで以上に配慮を必要とします。**

しかも国の例示のようなことが、すべてできるわけでは

ありません。(フィジカルディスタンス・沈黙しての食事等)

仮に手立てを取ったとしても、感染リスクがゼロになるわけではありません

## **\*ご理解いただいた上で、登園についてご判断ください。**

**〈お子様の保育認定は、就業時間+通勤時間です。〉**

**お仕事がお休みの時は、できるだけ登園をお控えください。**

登園の際の注意事項はこれまで同様です。

1) 保護者、ご家族も朝夕の検温をご家族でなさってください。

- 2) お子さんの発熱や体調不良時はもちろん登園できませんが、ご家族のどなたかが発熱（微熱であっても）や体調不良の場合でも必ずお知らせください。  
その場合、お子さんの登園はできるだけ控えてください。  
また、これまでもお伝えしているように、お子さんは解熱後 24 時間経過しないと登園できません。
- 3) 登園、降園の際も密を避けるための手立てを取りますので、お守りください。  
（これまでお示したような手順はそのままですが  
これから寒さが増しますし、雨天時等くれぐれもお気を付けください）  
\* 複数人での送迎といったことも起きています。複数で来られた時も門前でお待ちいただき、できるだけ密を避けてください  
**\* お子さんの荷物の確認等も必ず保護者が行ってください。**
- 4) お子さんが平熱で元気という場合であっても、登園の判断は保護者の方にお任せいたします。

\* 登園するのが心配、在宅勤務できるという保護者の方はその旨あらかじめお伝えください。

- 5) 各種行事は“原則”中止となっています。  
しかし、子どもにとって必要なことを吟味しながらの対応となります。
- 6) 職員も交代で休暇を取ります。また、お子さんの登園数によっては合同保育となることもあります。連絡モレの無いよう十分配慮しますが口頭での連絡で行き違いのないように、メール等をご活用ください。

**\* 職員も皆様と同じく感染リスクの不安と闘いながらの出勤です。**  
これまで以上に消毒や感染防止の対応で、医療従事者同様、疲弊していることも事実です。

できるだけ休暇や休息がとれるようにと配慮していますが、土曜日休みもなかなか組み入れられないのが現実です・・・。

感染が広がらないよう、休園することに至らないように努力はしていますが・・・。  
もちろん保護者の皆様もきっと同じように対策し、不安を抱えながらの生活であると思います。

**このような状況下だからこそ、皆さまと力を合わせてこの感染症の収束を迎えたいと思います。**

**ご協力お願いいたします。**